

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
1	春学期 / SPRING	春学期	月1	THE50560	ボランティア論	漆原 比呂志	世界の貧困、紛争、難民問題、環境破壊、そして頻発する自然災害は、近年ますます深刻化し、喫緊の課題となっている。様々な課題への取り組みのため、国連や各国政府のみならず市民社会セクターとそれを支えるボランティアの存在と役割は、これまでになく重要となっている。本講義では、アジア各国および日本国内のNGO/NPOやカトリック教会による支援活動を行うボランティアの実践について学ぶ。講義、演習、ボランティア体験を通して、ボランティアの意義や社会的役割、使命について考察する。
2	春学期 / SPRING	春学期	月3	MGGE7980	BUSINESS STRATEGIES FOR SUSTAINABILITY	SUZUKI Masachika	In the time of SDGs and ESG, sustainability is becoming an increasingly important area for corporate managers (and for public policymakers) to handle in global business operations. Climate change is an example of sustainability issues. What strategic and management vision to demonstrate towards global climate change is becoming a key strategic and managerial issue for the companies in the energy-intensive industry sectors. Human rights are another example of sustainability issue. For the companies operating in the developing countries (such as oil and gas, chemical, pulp and paper, and trading companies), poor strategy and management of human rights often addresses serious risk to their business in the global market.  This course introduces concepts and practices of sustainability management. We will read several leading articles to understand how companies can cope with different sustainability issues such as human rights, the environment, product safety and labor relations. By reading them, we will explore how companies strategize and operationalize sustainability. We will also pay attention to the roles of different stakeholders surrounding them including customers, shareholders and employees as well as suppliers, financial institutions, governments and local communities. We will also review key theoretical approaches in sustainability management to gain a conception foundation on this subject.
3	春学期 / SPRING	春学期	月3	GSP30160	国際教育開発・協力論(理論と課題)	梅宮 直樹	本講義では、発展途上国における教育開発・協力に関する理論と概念の変遷と教育開発・協力研究の系譜及国際的潮流を概説したうえで、初等教育、ノンフォーマル教育、中等教育、職業技術教育、高等教育など教育段階別の課題として、教育機会への公正なアクセスと格差の問題、教育の効率性の問題、教育と質と学習達成度(あるいは学力)の関係、教育と労働市場との関連性、教育部門のガバナンスとマネジメント、等を検討し議論する。また、国際教育開発の理論について、教育学、社会学、人類学、経済学、など様々な学問領域からの接近方法(アプローチ)を整理する。さらに、女子教育、教育と保健、紛争と教育復興、インクルーシブ教育などグローバルな課題を検討し議論する。最後に、「持続可能な開発目標(SDGs)」における教育目標の実現に向けた将来展望を議論する。なお、担当教員はJICAからの出向教員で、JICAや世界銀行で25年ほど国際教育協力に携わっており、その経験・知見を踏まえた講義を行う(参考: <a href="https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html">https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html</a> )。
4	春学期 / SPRING	春学期	月5, 木5	LENG3282	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (INTERMEDIATE)*	藤田 保	On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills. You will gain deeper understanding of the SDGs not only through studying a textbook but also by engaging in some the personal research and project. You are expected to relate what you learn in the classroom to the actual social activities in the world.
5	春学期 / SPRING	春学期	火1	GSS30280	SDGsの課題と可能性:企業と投資家の視点から	コ)森下 哲朗	国際社会が掲げるSDGsに対して、企業や機関投資家がどう取り組んでいるか、また、企業がどのような課題に直面しているかについての講義を行ったうえで、講義で学んだことを活かしながら、サステナブルな社会の実現に向けた企業・地域の課題についてのグループワーク及びプレゼンテーションを行う。前半の講義は、ESG、SDGsに関する前提知識について学んだあと、企業からみたESGについて、Environment, Society, Governanceのそれぞれの切り口からの講義を行う。その後、投資家がどのようにSDGsやESGに向き合っているかや、資本市場との関係についての講義を行う。後半では、受講者をチームに分けて、各チームで具体的なテーマを設定してもらい、グループで検討結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。受講者数は60名程度を予定している。講義はりそなグループ(株式会社りそなホールディングス、りそなアセットマネジメント株式会社)により実施される。当講座は秋季の「ESG概論Ⅱ」と合わせて受講することにより、サステナビリティ投資やESG(環境・社会・ガバナンス)の各側面を学修することによって、様々な社会課題と企業のESG経営および投資の本質的な役割や社会に与える影響を考えていきます。「ESG概論Ⅰ」と「ESG概論Ⅱ」は講座の流れとしてはこの順番で受講されることを想定した構成になっていますが、どちらかのみを受講したり、「ESG概論Ⅱ」から受講されても特に問題はありません。
6	春学期 / SPRING	春学期	火3	GSP20940	ESG概論Ⅰ	引間 雅史	春季の「ESG概論Ⅰ」ではESGの各側面で重要性の高い社会課題やテーマについて丁寧に見ていくとともに中長期の企業価値向上を目指す投資家の意思決定や投資行動について学修します。  まず社会的責任投資(SRI)の海外における歴史的変遷を学修するとともに日本における実態と課題を探っていきます。それから地球規模で大きな変革が起きつつある気候危機対応・脱炭素化について企業・投資家・政府それぞれの対応について見ていきます。特にこの面での世界の機関投資家の代表的ESG投資アプローチであるダイベストメント(投資撤退)とエンゲージメント(投資先との対話)について相違点や効果を考えていきます。  S課題(社会面)については人権・労働問題、ジェンダー・ダイバーシティ、人的資本マネジメントなどの重要課題と企業価値との関係や投資家の役割などを考えていきます。コロナ禍を経てこれらの社会面の課題への関心は高まっていますが一方で評価基準が十分定まっていない問題点もあります。  最後にG課題(ガバナンス面)として国際比較を交えながら取締役会構造や役員報酬制度・政策保有株式などの問題を取り上げます。ガバナンスは企業のEとSの取組みにも影響する土台でもあり機関投資家も重視している要因であることから日本固有の課題も探っていきます。  本講座は投資に関するテーマを扱いますが、投資の技術的な側面は最小限に留め、投資アプローチ面でのより詳しい掘り下げは秋季の「ESG概論Ⅱ」で扱うこととします。また短期的な収益を追求する投資は本講座の対象外となることを付け加えておきます。
7	春学期 / SPRING	春学期	火4	GSP20960	国際高等教育論①(歴史と変遷)	梅宮 直樹	日本および世界の高等教育の歴史と現状について地域ごとに概観したうえで、今日の世界の高等教育の現状と課題、その中で大学が果たすべき役割について議論する。また、マレーシアとカンボジアの2つの大学の学生とオンラインでつなぎ、3か国の学生が集まって互いの国の文化、高等教育制度や大学生生活について意見交換を行う交流授業も実施する。なお、担当教員はJICAからの出向教員で、JICAや世界銀行で25年ほど高等教育の国際協力に携わっており、その経験・知見を踏まえた講義を行う(参考: <a href="https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html">https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html</a> )。  なお、2023年度後期に開講する国際高等教育論②は、日本および世界各地で急速に進む高等教育の国際化に焦点をあてながら大学を取り巻く環境の変化と国際社会による対応を詳しく見るのに対して、本講義では、日本および世界の高等教育の歴史と現状について地域ごとに詳しく見ることを通じ、大学が果たすべき役割について議論する。また、国際高等教育論②の履修は国際高等教育論①を履修しなくても可能である。ただし国際高等教育論①を履修しておくのが望ましい。

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
8	春学期 / SPRING	春学期	火5, 金5	LENG3292	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (INTERMEDIATE)*	藤田 保	On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills. You will gain deeper understanding of the SDGs not only through studying a textbook but also by engaging in some of the personal research and project. You are expected to relate what you learn in the classroom to the actual social activities in the world.
9	春学期 / SPRING	春学期	水1	BGS53900	国際協力論1	田中 雅子	国際協力は、において人権を「持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)」に焦点を当て、国内外の開発、また私たちの暮らしと社会を変えるアクターであるNGO/NPOについて学ぶ。貧困、女性や子どもへの暴力、人権侵害、環境破壊など、地球規模の課題が深刻化する現代社会において、国家とは異なる市民の立場から、国境を越えてこれらの課題解決に取り組むNGOの役割が重要になっている。国内においても、行政や企業とならんで社会を変える流れをつくるNPOは、若者の社会参加や新たな働き方を実現する場として注目されている。NGOやNPO、またその根底にある社会運動・市民運動、それらを支える人とお金の流れについて理解し、自分の社会参加や働き方についても考えることを目指す。予習としてテキストの該当章を読み、授業日は教員がアップロードする資料を見てリアクションペーパーを Moodle で提出する。フォーラム機能を用いて相互にコメントするなど、アクティブ・ラーニングを促す。週によっては授業時間内に小テストも行うが、事前に告知する。復習として参考資料を読み、レポート課題を準備する。ZOOMによるライブ型授業については、学生の通信環境など確認の上、質問への回答や発表に利用することが可能であれば、後半での利用を検討する。
10	春学期 / SPRING	春学期	水2	BGSS4003	ADVANCED STUDIES (INTERNATIONAL ORGANIZATION B)	荻巢 崇世	This specialized lecture explores on various roles and functions of international organizations specialized in international development and cooperation. A range of issues and emerging trends in international development will also be discussed. The course will be divided into two parts. The first introductory part is to familiarize ourselves with key actors in international development and cooperation – ranging from UN organizations, development banks to non-governmental organizations and philanthropies – in different sectors of development and understand the similar or different rationales behind the work of each actor – or “mandate”. We will then explore some mechanisms by which international community tries to work together and discuss issues and challenges involved international cooperation in development. In the second part, we will discuss the current global agenda, i.e. Sustainable Development Goals (SDGs). This will be done firstly by reviewing the process for the international to agree on the education goal, SDGs (Goal 4), and secondly by comparing strategy documents developed by different actors on the goal. The course contents and schedule are subject to change depending on students’ areas of interest. Guest speakers might also be invited.
11	春学期 / SPRING	春学期	水2	MGGE7655	JAPANESE ENVIRONMENTAL LAW	ORI Akemi	As the international community is to diversify, in order to construct a Recycling-based Society, we need to think about the waste management not only in Japan but also in the entire Asia. The title is the waste policy in Asia, but since waste is an international issue, we will look at waste issues not only in Asia but also worldwide. We will also deal with recent marine plastic issues, Circular Economy, waste and SDGs. In the class, not only lectures but also government officials of automobile recycling and construction recycling, recycling companies, etc. will be invited as guest speakers. In addition to utilizing videos, tours to recycling plants will be conducted. For Doctor Course students, in addition to the basic lectures, we will give more analytical classes based on the themes of their dissertation.
12	春学期 / SPRING	春学期	水4	HJN53600	時事問題研究特殊1a(国内)	大牟田 透	朝日新聞GLOBEの特集記事などを題材に、国内外の時事問題への理解を深めると同時に、ストレートニュースとは異なる企画記事の立案や取材方法を学びます。特集記事を担当したGLOBE記者らに企画の着想や実際の取材・執筆について聞くなどしたうえで、ディスカッションやグループワークなどを通じて理解を深めます。「自分が記者・編集者ならばどのような企画記事をつくるか」といったテーマでのグループ討論やプレゼンテーションを経て、自らの企画記事を実際にも作ってもらいます。GLOBE編集部のデジタル発信の取り組みなども学び、メディアの新しいあり方についても議論します。リアクションペーパーやレポートを課し、それをもとにした議論もおこないます。*春学期と秋学期はほぼ同一内容ですので、重複受講するかどうかはその点を十分考えたうえで決めて下さい。再受講者には評価のハードルを上げる可能性があります。
13	春学期 / SPRING	春学期	水4	GSCH0021	キリスト教人間学(環境教育)(Cブロック)	吉川 まみ	本科目は、上智大学の教育の精神「他者のために、他者とともに」For Others, With Othersに基づくユニバーシティ・アイデンティティをになうコア科目「キリスト教人間学」科目群に属する選択必修科目です。この講義では、環境教育を「持続可能で包摂的な社会の担い手を育む」という広い意味で捉えます。まず、カトリック社会教説における社会的弱者優先の意図的優先の思想や、教皇フランシスコによる環境問題についての公文書『ラウダー・シ』などに示された、キリスト教が大切にしている価値観を学びます。その上で、あるべき人間、社会、地球、超越との調和を考えながら、多様な社会的弱者への配慮をふまえたエコロジカルな実践事例を考察します。このような学びを通じて、私たち一人一人が包摂的で持続可能な社会づくりの担い手として、どのように主体的に“他者のために、他者ととともに”生きていけるかを考えたいと思います。なお、進捗状況に鑑みて、各回のテーマの順番や事例の内容などを適宜変更する場合があります。
14	春学期 / SPRING	春学期	水5	BGS57626	演習(国際協力論)1	田中 雅子	持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰ひとり取り残さない」ことを掲げている点に従来の開発目標との違いがある。「性、年齢、人種、民族に関係なくすべての人々が、また障害をもつ人、移民、先住民、子ども、青年、脆弱な状況下にある人々が社会への十全な参加の機会を確保すること」を目指している。この演習では、人権に関する国際規範の中から、各自が関心のあるものを選び、それが、どのような状況下に置かれた人に対して、どのように役立つのか、その成立背景にある市民運動、国内外の実践現場での活用例、国際協力の文脈における普及について学ぶ。「国際協力論概説1」、「国際協力論1」と「国際協力論2」を履修済みであることが望ましい。

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
15	春学期 / SPRING	春学期	水4	GSP20970	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION - OVERVIEW AND MANAGEMENT METHOD OF JAPAN'S INTERNATIONAL COOPERATION -	UMEMIYA Naoki	<p>Japan has been providing Official Development Assistance (ODA) for socio-economic development of developing countries as a member of the international community working to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs). Meanwhile, Japan has a unique history of its own development and ODA. In addition to the experience of modernization from a non-Western society through the Meiji Restoration, Japan has a unique history of reconstruction after World War II, receiving much support from the international community, achieving high economic growth and becoming one of the largest donor countries.</p> <p>After reviewing the challenges and SDGs facing developing countries today, this course will overview and discuss the history, policies, characteristics and practices of Japan's ODA, with specific examples of cooperation projects. The class will also learn about project management methods through working in groups to design a project to address educational development issues in developing countries, using project management methods that are actually used in the formation of ODA projects.</p> <p>This course will be taught by a professor on secondment from JICA (Japan International Cooperation Agency) who has been involved in international cooperation with JICA and the World Bank for about 25 years (Reference: <a href="https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html">https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html</a>)</p> <p>Some Malaysian students from a university in Malaysia might also participate in this course on-line.</p>
16	春学期 / SPRING	春学期	水6	MFIC1240	外交と国際協力論	山本 栄二	<p>講師は、40年以上に亘り外交官として、外務本省並びに国連代表部(2回)、韓国(2回)、東南アジア等で政策立案・交渉に従事してきました。その間に得た知見をベースに、先ずは国連に関し、安保理のしくみと役割、そしてウクライナ侵攻で明らかになった限界に迫ります。総会が果たすルールメイキングの機能に着目し、日本のリーダーシップをクメールルージュ裁判の事例を通して明らかにします。現場の平和構築の努力と日本の取り組みを東ティモール(大使で赴任)等の事例を通して説明します。次に、パイの協力を中心に日本のODAの推移と現状を解説した後、地球規模課題に対する日本の貢献、具体的にはグローバルヘルス(含む新型コロナへの対応)、気候変動、危機管理(含むテロ対策)について学んでいきます(担当審議官乃至大使を歴任)。最後に、講師は長年朝鮮半島外交に従事し、北朝鮮には計6回訪問し、また韓国との関係では過去の歴史に起因する諸問題に取り組みました。その際の生々しい経験と苦悩を皆さんと共有し、今後の日本の関わり方について一緒に考えていきます。</p> <p>各授業では、基本的に講師がスライドなどを準備し講義しますが、皆さんとのインタラクティブなアクションを重視し、質疑応答・討論にも十分な時間を充てます。また、節目でリアクションペーパーの作成、並びに最後の方では各学生に適当なテーマでプレゼンをしてもらい、その内容を踏まえて(期末)レポートを作成・提出してもらいます。</p> <p>なお、授業は基本的に日本語で行いますが、講師は必要に応じて英語又は韓国語で学生をサポートします。</p>
17	春学期 / SPRING	春学期	木3	GSP20750	INTRODUCTION TO INTERNATIONAL COOPERATION THEORY AND PRACTICE	荻原 崇世	<p>This course explores on various concepts, theories, and practices of international cooperation with particular focus on development cooperation. A range of issues and emerging trends in international development will also be discussed. The course will be divided into two parts. The first introductory part is to familiarize ourselves with key theories and concepts in international development as well as the current global agenda, i.e. Sustainable Development Goals (SDGs). Major actors and critiques in international development will also be discussed. The second part is where we take a closer look at different sectors—poverty, environment, health, peace building, and education—to deepen our understanding about global issues and challenges we face and how international community has tried to address them. Guest speakers who have hands-on experiences in international development would be invited based on the students' interests.</p>
18	春学期 / SPRING	春学期	木5	GSS20640	地球環境学I	コ)鈴木 政史	<p>現在の経済システムや生活様式は持続可能ではない。昨今「持続可能性」の必要性が叫ばれているのは、すなわち経済や生活が将来的に破綻する深刻なリスクが認知されていることの裏返しと言える。</p> <p>システムとしての地球環境問題は、資源・エネルギー問題を含む自然界の物質循環のしくみに加え、市民の意識、生活様式、価値観、政治、経済、財政・税制、国際問題などが深くかかわり、それぞれの問題が高度に複雑な関連を持つ。</p> <p>本講座では、地球環境問題が社会システムのあらゆる部分に影響を与えており、「環境」のためではなく、「人類」つまりは私たちの存続に関わる問題であること、そして、それらが私たちの生活や社会システムに起因する問題であるという本質を理解し、その構造を人文・社会科学の観点から解明を試みると共に、今後解決の方策を考察するきっかけを得ようとするものである。</p>
19	春学期 / SPRING	春学期	木6	MGGE8061	演習 / SEMINAR A	織 朱實	<p>環境問題は、地球規模で国際的に考えなければいけない問題であると同時に、私たちの暮らしのあらゆるところに関わっている問題である。その問題の対策を法律でどのようにコントロールしているか、法の適用とその限界を考えながら解決策を考えていく。地球環境的および現実的な観点を意識しながら文献報告と討議を行う。テーマごとに担当者が発表を行い、それに対する質疑応答を重視する。皆でしっかりと議論するためには1人1人がしっかりと準備することが必要となる。指定図書、判例をきっちり読み込んで分析することをベースに、現場実証等を加えて議論を発展させていきたい。</p>
20	春学期 / SPRING	春学期	金1	GSS20040	途上国の人間開発	ブテンカラム ジョンジョセフ	<p>本科目、「途上国の人間開発」では、経済開発から人間開発へという発想の転換を学ぶことである。そのために発展途上国の現状を把握したうえで、開発を阻む貧困や環境問題を分析し、これらの問題を克服する新たな概念として、人間開発の思想を考察する。そして、道徳・政治・社会・技術・インフラ・経済などさまざまな諸領域における人間開発を可能にする要件を考える。さらに、人間のバイシクニーズと共に人間の安全保障の考え方をふまえ、21世紀の私たちに求められるSDGsに基づく人間社会を描くことをめざす。</p>
21	春学期 / SPRING	春学期	金2	MGGE6180	FOREST AND HUMAN INTERACTIONS	PARK Haemi	<p>Forest ecosystem provides provisioning, regulating, cultural, and supporting services. In this class, the interrelationship between forest ecosystem and anthropogenic disturbances will be introduced. This class focuses on the importance of forest conservation and the appropriate management by understanding potential human impact (i.e., wildfire, drought, and fertilization). Students can learn about basic remote sensing and GIS techniques for forest monitoring.</p>
22	春学期 / SPRING	春学期	金2	DGGE7260	ADVANCED FOREST AND HUMAN INTERACTIONS	PARK Haemi	<p>Forest ecosystem provides provisioning, regulating, cultural, and supporting services. In this class, the interrelationship between forest ecosystem and anthropogenic disturbances will be introduced. This class focuses on the importance of forest conservation and the appropriate management by understanding potential human impact (i.e., wildfire, drought, and fertilization). Students can learn about basic remote sensing and GIS techniques for forest monitoring.</p>
23	春学期 / SPRING	春学期	金3	MGGE6170	森林生態学	朴 慧美	<p>森林生態系を構成する植生、土壌、地形、気候、水の相互作用について学びます。</p> <p>森林の成り立ち、成長、遷移、さらに攪乱過程について学び、気候変動の観点から森林資源保全と適切な管理の重要性を考察します。植生指数を含めたりモートセンシング・地理情報システム(RS/GIS)を用いる森林モニタリング技術について学びます。</p>
24	春学期 / SPRING	春学期	金5	MADS7170	生産性と企業価値のマネジメント	小林 裕亨	<p>従来、日本は売上・利益額やシェアに重点を置いて経営をしてきたが、今後はSDGs、ROICなど多角的な価値を生産性高く創出し続けなければならない。本講座では、企業価値および生産性に関する様々な経営指標(KPI)についての基礎を理解する。履修範囲が広くなるため今日の企業経営にとって重要なテーマ・領域を選択的にカバーする。</p>

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
25	春学期 / SPRING	春学期	金5	GSB20060	オリンピック・パラリンピック概論	師岡 文男他	オリンピック・パラリンピックは、単なるスポーツ競技の祭典ではない。 『オリンピック憲章』にはオリンピックの根本原則として、「オリンピックは生きる哲学である」「スポーツをすることは人権の1つである。すべての個人はいかなる種類の差別も受けることなく、スポーツをする機会を与えられなければならない」「オリンピック精神においては友情、連帯、フェアプレーの精神とともに相互理解が求められる」と記されており、オリンピックの目的は「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指す。スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てること」であることを明快に示している。また、パラリンピックは、このオリンピックが示している目標を障がい者社会でも実現させ、真の共生社会を構築することを目指している。 この科目では、2021年に東京で開催されたオリンピック・パラリンピックを通して、オリンピック・パラリンピックとは何か、また国連加盟国以上の国と地域の人々が参加するメガイベントであることの価値と改革すべき課題について多くの講師の輪講で総合的に学習し、多種多様な人々が共生するための課題についても考えていく。
26	春学期 / SPRING	春学期	他	HNU65100	国際看護学実習	吉野 八重	開発途上国での国際協力活動に携わる看護職だけでなく、日本国内の医療機関に勤務する際にも、看護職の異文化コンピテンシーの強化が求められるようになってきた。国連の持続可能な開発目標(SDGs)に掲げられた、「公平な医療へのアクセスの実現」に向けて看護職が果たす役割は大きい。全医療人材の中で50%以上を占める最大の専門職集団である看護職は、マイノリティ、貧困層などの社会的弱者がおかれている状況に関する包括的な知識と理解、共感、擁護するために高度な知識や技術が求められている。本実習では開発途上国に特有の社会・保健医療システム、疾病構造、教育制度、看護業務、ケアのあり方、人々の健康の社会的決定要因、受療行動にどのような影響をもたらすのか、また、文化を超えた普遍的な看護師の役割について理解を深めることを目的とする。さらに大学卒業後のキャリアプラン、開発に向けた自身の課題について考える機会とする。
27	春学期 / SPRING	春学期	他	MGGE6000	日本の環境法	織 朱實	わが国の環境関連法と諸外国の環境法との比較分析を通して、わが国の環境法の構造と意義、課題を理解してもらうための、講義を行う。 具体的には、総論で環境法の位置づけ、政策手法との関係、諸原則について理解してもらう。さらに、大気、水、土壌、廃棄物、化学物質の個別法について講義を行う。 適宜、ビデオを活用しながら、環境汚染対策の現場ではどのような問題が発生しているのかの理解を深めてもらう。博士課程の学生にはこれらの基本的な講義を踏まえたうえで、学問的分析を行うための設問を行っていく。また、少なくとも一つの外国語を用いた基礎的なコミュニケーションを行うことができるようになるような授業とする。 オンライン授業となったため、①オンデマンド授業の配信と②同時配信授業を組み合わせる授業を行う。①同時配信授業に先駆け15分程度の録画した講義内容をLoyolaにURLをアップするので、それを事前に学習し、その学習を前提として、②Zoomによる同時配信授業で対話をしながら講義の内容を補完していく。成績は、①のオンデマンド授業で要求された課題を、②の同時配信授業で確認すると同時に、毎回同時配信授業後に提出してもらうリアクションペーパー、最後の全体レポート提出および補講での発表で評価を行う。
28	春学期 / SPRING	1クォーター	火3, 金3	GSS20520	SUSTAINABLE DEVELOPMENT*	SUGIURA Mikiko	The concept of "Sustainable Development" offers us many controversial topics these days. It is defined as how to balance economic growth, society, and the environment, not only for us but also for future generations. However, is such a thing possible in the first place? What kind of historical background does this concept, which encompasses conflicts of interest, have, and what kind of stakeholders does it involve? Is it possible to achieve a win-win-win situation, and what kind of innovative ideas are needed to achieve it? With creativity and critical thinking skills, you all need to redefine this concept for yourself and implement the ideas. In such a sense, we are involved in these issues as global citizens without exceptions.  To find some clue to these questions, we need to know the historical and political backgrounds of the "development" concept, underlying assumptions in context, and environmental carrying capacity as our limits to recognize what we really need and want.  This course provides students with opportunities to think about the future development we want and how to pursue a "sustainable" future.
29	春学期 / SPRING	1クォーター	火6, 木6	MFIC1420	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION: POPULATION, HEALTH, GENDER AND HUMAN RIGHTS	佐崎 淳子	In this course, students will learn International Development Cooperation for achieving the sustainable development goals (SDGs), especially for poverty reduction. The focuses are: the general basics, history, key actors, inter-relations, cooperation, coordination, United Nations System (The UN Economic and Social Commissions, Technical Organizations and Programs and Funds), Governments, NGOs, CSOs, Media and Parliamentarians, politics, diplomacy, negotiations, decision-making processes for development policies, programs, funding and ODAs, humanitarian assistance. Special thematic focuses are: population and development, population dynamics (population bonus, low fertility, ageing, migration, child marriage, child labor, etc.), social policies, international health, universal health coverage (UHC), gender equality and women's empowerment, climate changes, disaster risk reduction and management, human rights based approaches. During the four workshops, students will prepare and present case studies and group discussions will be held to deepen the practical understanding.
30	春学期 / SPRING	2クォーター	土1, 土2	MFIC1130	SUSTAINABLE DEVELOPMENT 1	高瀬 千賀子	This course will examine the major conceptual framework of sustainable development and some case studies. First, the course will see the evolution of sustainable development and the global process that led the creation and the adoption of the Sustainable Development Goals. Considering we are at the mid-point in the period up to 2030, the course will examine how the 2030 Agenda for Sustainable Development is being implemented, using the case studies of the strategies and policies of selected countries and cities. Finally, the students will be conducting to make a case study on the strategy/plan on the implementation of SDGs by a country/ a city/ a private company. Depending on the number of the students registered, this may become a group work.

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
31	春学期 / SPRING	2クオーター	火6, 木6	GSS20610	GENDER EQUALITY, INTERNATIONAL COOPERATION, UN, GLOBAL COMMUNITIES AND JAPAN*	佐崎 淳子	<p>In this course, students will learn "gender equality", (i) its meanings, (ii) its importance for social and economic development and international development cooperation, and (iii) its current situations and remaining challenges in Japan and in the World.</p> <p>Students will learn and understand (1) why the development cooperation, its agreements and commitments, such as the Sustainable Development Goals (SDGs), consider "Gender Equality" important as own goals and/or cross-cutting strategies, and (ii) what kind of strategies and actions are being carried out through the multilateral development cooperation, especially the UN development cooperation and bilateral development cooperation such as Japan International Cooperation Agency (JICA). In the classes, we look into the work of UN Program and Funds (UNFPA, UNICEF, WFP, UNDP, etc.), IOM, and UN Technical Organizations (UNESCO, WHO, etc.), and that of Japan International Cooperation Agency (JICA).</p> <p>Through the globalization process, the UN system and international development cooperation have changed, to better fit for the purposes. In 2010, Millennium Development Goals (MDG), and in 2015 Sustainable Development Goals (SDGs) were approved. Gender Equality and Women's Empowerment have been considered as one of the central, key factors for development and poverty reduction (SDG1), from a human rights point of view. It has become mandatory that all development assistance programs incorporate gender equality as cross-cutting strategies, if not its own objectives.</p> <p>Japan is one of the G7 countries and also a donor country for international development assistance. However, Japan ranks number 116th in the World Economic Forum's Global Gender Ranking (2022). Japan is even behind some Asian countries which she supports (e.g. The Philippines: 19th, Laos: 53th, etc.), her neighboring countries (South Korea: The act of "Innovation" is universal to human beings and is also the core of "Technology". The "things" that are created include hardware, software, and even systems.</p>
32	春学期 / SPRING	春学期集中	他	SCT6850E	TECHNOLOGY & INNOVATION - CAREER DEVELOPMENT -	Co) KONDO Jiro/ Others	<p>In this lecture, thanks to the cooperation of the Alumni Association of the Faculty of Science and Technology, we will invite alumni of our university who are active globally as lecturers to give lectures on technology and Innovation in English from various perspectives. In addition, the lecturer will introduce examples of career development in the industry based on his own actual experience, which is also the subject of this lecture.</p> <p>* Taking this course is strongly recommended to all students in Green Science and Green Engineering courses of Faculty of Science and Technology.</p>
33	春学期 / SPRING	春学期集中	他	MGGE6140	ENVIRONMENT MANAGEMENT & CONSERVATION POLICY	SHIBATA Shingo	<p>Under the circumstances of prolonged covid-19 pandemic and the war, the world is moving toward SDGs and resilient, decarbonized society, and protecting biodiversity and natural capital values at the same time.</p> <p>Through this course, students can obtain essential knowledge on global environmental resource management policies, theories and practices toward building sustainable society, including sustainability concept, history of environmental resource management policy, collaborative and participatory policy making, payment for ecosystem services (PES), ecosystem-based resource management, sustainable regional development, global forest conservation policy amongst others.</p> <p>Students are required to conduct group works on reading materials, presentations, and also an individual case study on a specific topic to make a final presentation to submit a final report.</p>
34	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月1, 木1	LENG4022	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (INTERMEDIATE II)*	CHAMBERS Garcia	<p>On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills.</p> <p>The focus on this course will be exploring some of the sustainable development goals (SDGs). As members of a global community, we will study systematically and critically topics related to SDGs with a broad goal of making connections, recognizing differences, and looking to the future. Through reading, learning the related vocabulary, and further researching a related topic of interest, you will become better informed and prepared to share and discuss with classmates each unit of the course. Not only will you learn the content and language to participate actively and critically in the class discussions, but you will also understand what it means to live as a global citizen and hopefully appreciate our shared humanity.</p>
35	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月3	HEDS1020	INTERNATIONAL EDUCATION	SUGIMURA Miki	<p>This class is part of the Sophia Program for Sustainable Futures (SPSF). International education is often thought of as a subject that addresses educational policies and systems in other countries, but it is not only that, it is an area that analyzes international relations surrounding education, and conversely, it considers how international relations affect education. This class will start with the basic question of what international education is, and explain how international education has developed based on internationalism. The program is divided into two parts: 1) the concept and historical background of international education, and 2) specific areas of international education, focusing on education policy and international relations.</p> <p>The course is offered in English, and students are required to write reaction papers and answer quizzes on relevant topics each time, and are expected to acquire the ability to gather information on various social phenomena related to education and to analyze them from multiple perspectives in collaboration with class participants.</p> <p>※Non-SPSF students are required to meet the same English language competency requirement as the one for the courses offered by the Faculty of Liberal Arts at Sophia University. Please check the requirement by yourself.</p>

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
36	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月3	MGGE7960	STRATEGIC ENVIRONMENTAL MANAGEMENT	SUZUKI Masachika	<p>Recently, we see more extreme, sometimes catastrophic events in many parts of the world. Scientists demonstrate better evidence indicating the link between our economic activities and the environmental degradation. We are beginning to realize that environmental issues are no longer negligible in business operations. Negligence of the issues may result in serious economic loss for a company. On the other hand, many companies have begun to recognize environmental management as a way forward to generate profitable opportunities. Toyota made a major investment to produce hybrid cars before its competitors. As you witness now, the hybrid cars have been sold well in the international market. Another example can be observed in the chemical industry. DuPont placed research and development efforts in producing alternative chemical to the ozone-depleting CFCs (chlorofluorocarbons) in the 1980s. The company successfully developed alternative chemical to CFCs and altered its strategic position on international regulation (Montreal Protocol) to ban CFCs.</p> <p>This course introduces essential concepts of strategic environmental management as well as leading practices of environmental management. To begin with, we will review essential theoretical approaches in strategic environmental management. Through the review, we will be able to gain conceptual foundation on this subject. We will use several case studies to help us understand environmental management in practice. We will then explore the linkages between concepts and practices.</p> <p>Some questions that we will address in this course are following:</p> <p>1) What are the leading examples of environmental management among companies?                  2) How are the companies dealing with global environmental sustainability issues such as SDGs (Sustainable Development Goals), ESG (Environment, Social, Governance), and climate change?</p> <p>On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills.                  このコースではAcademic Communication1 で学んだ学習スキルを使ってアカデミックな科目、或はトピックについて学びます。トピックについての知識と言葉とクリティカル・シンキングスキルをさらに伸ばしていきます。</p>
37	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月3, 木3	LENG2032	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (ELEMENTARY)*	BABULALL Alexander	<p>Students will learn, research and teach each other about the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). Students will use the receptive skills they developed in semester 1 to identify key points and arguments in talks and texts about SDGs. There will be a strong focus on output as students will discuss, write essays, and present about the different goals. Students will use their critical thinking skills to assess which goals are most important, and identify ways to achieve them. Students will be encouraged to think logically and practically to decide which goals are most achievable.</p>
38	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月4	MHED7430	LECTURE IN INTERNATIONAL EDUCATION	SUGIMURA Miki	<p>International Education is a field of pedagogy that focuses on how international relations affect various events in education, or conversely, how education has an impact on international relations and trends in international political economy and academic and cultural exchange, and clarifies the dynamism of these relationships. In today's world of internationalization and globalization, in addition to the traditional nation-state based education, there are various forms of transnational education and international programs led by regional organizations such as the EU, ASEAN, and ASEM. In addition to the education that UNESCO has developed, a variety of other developments have been seen. The subjects of analysis include a wide range of perspectives, from the ideals, concepts, and historical background of education to specific educational practice activities, and research methodologies include both qualitative and quantitative research approaches. In this class, we will clarify the characteristics of international education, which has these multifaceted aspects, and discuss the development of Japan's international education policies and programs, especially in the context of international trends, including international understanding education, development education, education for sustainable development (ESD), UNESCO associated school network, and other international education practices in Japan. The role and challenges of international education will be analyzed and examined based on comparisons with the international education policies of other countries.                  This class is also one of the JICA Development Studies Program. <a href="https://www.jica.go.jp/dsp-chair/english/index.html">https://www.jica.go.jp/dsp-chair/english/index.html</a></p>
39	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月4	DHED7071	ADVANCED LECTURE IN INTERNATIONAL EDUCATION	SUGIMURA Miki	<p>International Education is a field of pedagogy that focuses on how international relations affect various events in education, or conversely, how education has an impact on international relations and trends in international political economy and academic and cultural exchange, and clarifies the dynamism of these relationships. In today's world of internationalization and globalization, in addition to the traditional nation-state based education, there are various forms of transnational education and international programs led by regional organizations such as the EU, ASEAN, and ASEM. In addition to the education that UNESCO has developed, a variety of other developments have been seen. The subjects of analysis include a wide range of perspectives, from the ideals, concepts, and historical background of education to specific educational practice activities, and research methodologies include both qualitative and quantitative research approaches. In this class, we will clarify the characteristics of international education, which has these multifaceted aspects, and discuss the development of Japan's international education policies and programs, especially in the context of international trends, including international understanding education, development education, education for sustainable development (ESD), UNESCO associated school network, and other international education practices in Japan. The role and challenges of international education will be analyzed and examined based on comparisons with the international education policies of other countries.                  This class is also one of the JICA Development Studies Program. <a href="https://www.jica.go.jp/dsp-chair/english/index.html">https://www.jica.go.jp/dsp-chair/english/index.html</a></p>

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時間 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
40	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月4	GSS20420	ダイバーシティ&インクルージョン:みんなが幸せに暮らせる、課題解決型の社会を生み出す思考	加藤 美和	<p>刻々と変化する世界において、山積する現状の課題を解決し、さらなる可能性を見出し、幸せに生きていくためには、多様性を尊重する思考方法が必要とされる。異なる背景で育ち、様々な属性・視点を持つ人々が、自分の観点を述べることを躊躇せず、誰もがもてる能力を全て発揮できる社会の枠組みを作っていくことは、21世紀の最優先課題の一つである。「ダイバーシティ、エクイティとインクルージョン(D&amp;E)」の視座を通じ、差別や不公平な負担をなくすことは、マイノリティの権利保護、そして人権概念を中心とした社会正義推進の観点からも重要なテーマであるが、近年では、国家・社会・組織の存続のために不可欠な生存・成長戦略としても注目が集まっている。本講座では、この二つの潮流について理解を深めつつ、特に後者の持つ可能性を理解し、「じぶんごと」として考えることに重点を置く。</p> <p>D&amp;Eについて知見を広げ、その国際的文脈、そして日本における現状について、具体例を挙げながら考察する中で、多様性を尊重し、力に変える組織・社会を作っていくために必要な考え方を提供する。例えば、「人類の半分の可能性を制限して、人類の発展はない」という問題意識に代表されるように、男女の格差は最も明らかな多様性の欠落の一つである。近年の日本において、ダイバーシティに関する議論は、組織における「女性の活躍」という文脈で語られることが多いが、性別や性的指向のみならず、人種や出自、信仰や文化、障害やケア責任の有無など、それぞれの異なる事情を抱え、「多数派」とは違った視点を持つあらゆる人々が、もてる力をフルに発揮し、幸せに暮らせる社会を目指すことの大切さについて理解を深める。</p> <p>均質な視点で、集団行動の効率を高めることを優先し経済成長を促してきた20世紀型の持続不可能な「成長」を超え、「認知的多様性(コグニティブ・ダイバーシティ)」も含めた多様な価値観を取り入れることで、イノベーションを生み出し、地球環境とも折り合いをつけ、より多くの人々が幸せに暮らせる社会を生み出すことが期待される背景を考察する。また、2015年、国連総会にて採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の示す世界観とD&amp;Eとの関係についても整理する。</p> <p>学期中に数回オンデマンド(自主学習)形式で、特定のテーマに関連したウェブベースのリサーチ、ドキュメンタリー動画等の鑑賞が授業に組み込まれ、短いリアクションペーパーの提出が求められる。また、学期終盤に、小グループ・ディスカッションを通してのピアとの学びの共有、そして各自の期末レポートの作成が求められる。(ただし、これらの形式・各セッションの内容については、学期初めに受講人数が確定し、受講者の関心に関するアンケートを実施した上で確定するため、シラバスに記載されている各回授業の内容詳細・順序等が変更となることもあり得る。)</p>
41	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月4, 木4	LENG2132	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (ELEMENTARY)*	BABULALL Alexander	<p>On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills.</p> <p>このコースではAcademic Communication1 で学んだ学習スキルを使ってアカデミックな科目、或はトピックについて学びます。トピックについての知識と言葉とクリティカル・シンキングスキルをさらに伸ばしていきます。</p> <p>Students will learn, research and teach each other about the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). Students will use the receptive skills they developed in semester 1 to identify key points and arguments in talks and texts about SDGs. There will be a strong focus on output as students will discuss, write essays, and present about the different goals. Students will use their critical thinking skills to assess which goals are most important, and identify ways to achieve them. Students will be encouraged to think logically and practically to decide which goals are most achievable.</p>
42	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月5	EMG52500	応用マーケティング	新井 範子	<p>市場の成熟によりサービスへ支出は増加している。サービスのみならず、コンテンツや経験、地域ブランド、キャラクターといった形のないものに対する市場は大きくなっている。形のない製品に対するマーケティングを扱いながら、モノのマーケティングとは違う構造を考えていく。これらの分野はまだ研究がはじまったばかりの分野である。そこでこの事例を紹介しながら、ケースを分析し、自分たちで理論を見つけていくことを目指す。さらに最近のSDGsの動きにマーケティングはどの対応するのか、マーケティングにおけるソーシャルな視点を考えていく。</p> <p>レポートやケースの分析を複数回提出する。 今年度は、前半、後半で自分で選択したそれぞれ1社ずつのケースの分析を行い、レポートとして提出する。 その経過を複数回にわたり、レポートとして提出する。 また、講義の最後にリアクションペーパーの提出を求めることもある。 講義の進行状況によっては、シラバスの順序が変わることがある。</p> <p>またマーケティングの基礎的な科目を履修しマーケティングの基礎を学んだ上で履修することが望ましい。 ・大企業、政府、行政、非営利組織、組織の目的、形態に関わらず、社会や利害関係者の変化を先取りし、これまでにないイノベティブな製品・サービスを企画し、立ち上げること、つまりベンチャーマインドと知識・スキルは、社会で生き残るうえで重要なコンピテンシーといえます。どの学校、どの会社組織に属するかということよりも、「あなたはどのような新しい価値をつくりましたか」が問われる時代になっています。</p>
43	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月5	GSS20560	グローバル・ベンチャー	高橋 透	<p>・イノベーションの重要な環境トリガーはグローバル社会とそれを加速化するIoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)などのDX(デジタル・トランスフォーメーション)です。コロナ後はさらにSDGsの観点が巨大な投資を呼び込み、大きな時代の転換期を迎えています。グローバル社会では、政治・経済・金融に関わらず格差問題、環境問題などの社会課題までもがグローバルにネットワークされることで、これまでにない新たな文脈の事象が創発される現象が私達の身近なところで起こっています。このような潮流は社会や私たちの生活や働き方を大きく変えています。</p> <p>・本学の創立の起源は1549年聖フランシスコ・ザビエルであり、また本学の創立は、イギリス人、ドイツ人、フランス人の3人のイエズス会士の努力によるものです。我々の先人はそれぞれの社会のグローバル化の潮流を先取りし、大胆な挑戦をしてきた人達です。地域、国家を超え、新たな智のネットワークをつくることで、グローバル社会を切り開いてきたと言えます。現在の我々のグローバル社会は、いくつもの厳しい課題を突き付けられています。新型コロナウイルスによるパンデミック、保護主義による経済戦争、各地で止まない紛争とその犠牲、経済優先主義による格差社会、AI、IoTなどの情報技術をいかに適正に制御するかなどの社会課題です。</p> <p>・本プログラムは、学生の方々に、様々なグローバル社会の課題を認識していただき、自分自身の可能性を感じ取り、イノベティブなことに挑戦する機会とその方法を提供し、「新たなグローバル社会を切り開くイノベーターの育成」を目指すものです。そのために授業では実在の社会課題や、企</p>

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
44	秋学期 / AUTUMN	秋学期	月6	GSS20710	2030リーダーシップ:現状の課題を解決し、みんなが幸せに暮らせる、サステナブルな社会を生み出す思考と実践の実例について学ぶ	加藤 美和	<p>環境問題、広がる貧富の格差、非寛容な考え方や極端な政治姿勢がネットを通してこれまでにない拡散力を得て、更なる分断が進み、多くの人が生きにくさを感じると言われる現在。二十世紀後半に私達の社会の枠組みを形成した、無限に続く「開発」や「成長」を想定した社会のあり方の限界が認識されるようになって久しい。それにも関わらず、私達の暮らしに影響を及ぼす現存の社会の制度や組織文化の多くは、これら前時代の規範や価値観がアップデートされていないことが多い。</p> <p>しかし、飛躍的に進歩し続けるテクノロジーや、それによってもたらされる「弊」がレバレッジとし、実際に人類の前に山積している課題に解決策を見出す動きもある。また、2020年以降世界を大きく変えたパンデミックへの対応の中に見られるような、新たな社会の創造の可能性も確実に存在し、「グレート・リセット」の好機が到来しているとも言える。これらの現実を前に、これまでにはなかった発想で、現状の課題を解決し、みんなが幸せに暮らせる、サステナブルな社会を生み出していくことも可能である。</p> <p>こうした転換期にある今、世界中のあらゆるセクターで、必要な変化を生み出すことにコミットし、実際に貢献できる「アクティブ・シティズン」が、これまで以上に求められている。また、そうした個人が居場所を見出し、活躍できるような社会・組織づくりが求められている。全世界がコミットしている「2030ビジョン・SDGs」で描かれるような、サステナブルで公正な社会を、本当に実現していくためには、マクロレベルでの理解と細分化されたゴール達成への促進だけでは、たどり着けない。全体像を理解し、物事の捉え方を変え、新しいシステムを作り出していく「アクティブ・シティズンシップ」そして「リーダーシップ」が不可欠である。</p> <p>この授業は、グローバル社会で、そして日本国内で、ホリスティックな問題解決を迫られる様々な課題に対し、具体的解決をもち、多様なアイデンティティや考えを持った人々の叡智を持ち寄り、これまで想定されなかった新しい機会・可能性を生み出す思考力・行動力について学び、共に考え、議論し、新たなコンピテンシーを体得する機会となることを意図する。この過程として、以下のような学びの機会を提供する。</p> <p>1) 現状の課題を解決しながら、社会の仕組みをアップデートし、よりサステナブルで公正な社会の実現に貢献する「2030リーダーシップ」について、理解を深める。</p> <p>2) 具体的なエリアを取り上げ、多くの人の生活に影響を及ぼすビジネス・経済活動の場において、これまでの業界の常識を塗り替え、よりサステナブルで持続可能な社会を実現するために、わたしたちが必要としているのは、個人あるいは集団の生き残りをかけて、科学的知識とデータをもとに、資源をうまく循環し管理する社会を設計することだ。こうした持続可能性に関する考えは、たとえばSDGsを眺めてみても、広く共有されているように思える。気候変動と気候正義をめぐる議論は、こうした「生き残り」にいいよ切迫性をもたらす、何かに駆り立てられつつも、具体的な手立てが日常にないものどかしさも日々加速していく。</p> <p>しかし、持続可能な社会とは具体的にどのような社会なのか、その中でわたしたちの生活はどのようなものになるのか考えてみると、意外にうまく思い描くことはできないのではないだろうか。</p> <p>わたしたちの社会は、これまで基盤としてきたゆるぎない「自然」によりかかるとはもはやできない。わたしたちは、人間活動がもたらした未知の惑星システムに生きている。かつてなく不確実性を増した惑星システムのなかで、いかに資源利用と保全の確実性を生み出すか。野生や里山など概念化された「自然」はそのための柱となりうるのだろうか。持続可能な社会の実現のため、生命工学によって生み出される「自然」や「生命」と、どのような関わりをつくっていくことができるだろうか。</p> <p>また、「生き残りをかける」といったときに、わたしたちの間で、そして未来世代との間で、公正さはどのように実現されるのだろうか。公正であるとはどのようなことを意味するのだろうか。また、持続可能な社会において、わたしたちとはどのような、そしてどのようにによりよく生きることを追求できるのだろうか。そもそも、わたしたちの存在の豊かさとは何を意味するのだろうか。こうした問いにうまく向き合えず、答えが探せないまま、持続可能な社会という言葉がわたしたちの先を歩いているようだ。</p> <p>本講義では、こうした問いに取り組んできた二つの近接する分野、環境社会学と環境倫理学の議論を参照しながら、科学技術が生み出す新しい生命や自然と向き合うための、それらを想像し生み出すための倫理的指針や実践について探求する。喫緊の課題だからこそ、立ち止まって考えることも必要になる。講義ではそれぞれが思考をめぐらせ、言葉をやり取りすることを通じて、まずは各々が立ち止まることから始めてみたい。</p>
45	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火1	MGGE7270	環境倫理	福永 真弓	<p>Humanity's most pressing issue is sustainability. Many changes force us to create and develop the conditions for the well-being of the planet, people, and society today. The Sustainable Development Goals (SDGs), which are expected to be achieved by 2030, demonstrate that the 17 goals are about more than our planet's ecosystem because many global and local issues are interconnected. They also determine global and local cooperation for long-term sustainability. For example, how can we achieve economic growth, environmental conservation, and an inclusive society? If we deplete all resources within our lifetime, how will future generations ensure their ability to achieve what they will require? Combinations and collaborations across all academic disciplines could lead to solutions.</p> <p>All SPSF first-year students must take this interdisciplinary course. This lecture series begins with a review of sustainability fundamentals. Following that, professors from six different departments speak about academic discipline and sustainability in their respective fields. The lectures will then be summarized, capturing the most recent trends in sustainability. Generally, each class requires student feedback comments, known as "Reaction Papers," on its lectures and/or discussions. In pursuit of sustainable futures, the course covers the fundamentals of sustainability research and academic discipline. The course ends with preparations for further studies in the disciplines and possible actions for sustainable futures, to be considered at the THIRD YEAR SEMINAR FOR SUSTAINABLE FUTURES.</p>
46	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火2, 火3	GSSS1010	FIRST YEAR LECTURE IN/ABOUT SUSTAINABLE FUTURES*	Co) MARUYAMA Hideki	<p>On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills.</p> <p>このコースではAcademic Communication1 で学んだ学習スキルを使ってアカデミックな科目、或はトピックについて学びます。トピックについての知識と言葉とクリティカル・シンキングスキルをさらに伸ばしていきます。</p> <p>Students will learn, research and teach each other about the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). Students will use the receptive skills they developed in semester 1 to identify key points and arguments in talks and texts about SDGs. There will be a strong focus on output as students will discuss, write essays, and present about the different goals. Students will use their critical thinking skills to assess which goals are most important, and identify ways to achieve them. Students will be encouraged to think logically and practically to decide which goals are most achievable.</p>
47	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火2, 金2	LENG2192	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (ELEMENTARY)*	BABULALL Alexander	<p>On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills.</p> <p>このコースではAcademic Communication1 で学んだ学習スキルを使ってアカデミックな科目、或はトピックについて学びます。トピックについての知識と言葉とクリティカル・シンキングスキルをさらに伸ばしていきます。</p> <p>Students will learn, research and teach each other about the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). Students will use the receptive skills they developed in semester 1 to identify key points and arguments in talks and texts about SDGs. There will be a strong focus on output as students will discuss, write essays, and present about the different goals. Students will use their critical thinking skills to assess which goals are most important, and identify ways to achieve them. Students will be encouraged to think logically and practically to decide which goals are most achievable.</p>



2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
48	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火2, 金2	LENG4232	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (INTERMEDIATE II)*	DOYMAZ Sirin	On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills. This is a CLIL-based course that mainly aims to develop students' discussion, research, and presentation skills and the theme will be the Sustainable Development Goals (SDGs).
49	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火3	LAW52200	現代行政学	三浦 まり	本講義では、人口減少に直面する日本が持続可能な経済社会システムへと転換するために、どのような政策が必要かを受講生自身が考え、提言することをめざす。その核となるのが、ジェンダー平等、格差是正、参加型民主主義、地域主権、人権である。近年の地方自治体はSDGsの理念に沿った政策課題を洗い出し、実施する傾向が見え始めてきた。地方議会のなり手不足問題を踏まえると、住民だけではなく、移住者や関係人口を巻き込んだまち作りも必要である。 受講生は現代行政が直面する課題についてリサーチを行い、市民と行政との新たな関係性について考察する。授業中のグループ・ディスカッションに参加し、最終的には6,000-8,000字のレポートを作成・発表する。いきなり長いレポートを書くのではなく、いくつかの段階を踏みながら、また受講生同士の議論を通じて、内容を積み上げていく。 ゲスト・スピーカーも数人お呼びし、自治体や政策形成の現場に関わる専門家から直接話を聞き、意見交換する機会を設ける。 授業は春学期開講の「現代日本政治論」の履修を前提として進めるので、履修希望者はあわせて「現代日本政治論」の受講を勧める
50	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火3	HED52800	国際教育学演習 II	杉村 美紀	国際教育学は、国際関係をめぐる教育の役割と課題について検討することを目的としており、①ヒトの移動(移民、難民、国際結婚、外国人労働者、留学生など)とそれに伴う多文化共生教育、②グローバル化、国際化のもとでの国民国家の揺らぎと教育の課題(国境を越えるトランスナショナル教育)、③国際関係を反映する教育事象(教科書問題など)、④国際教育文化交流といった観点が含まれます。2023年度は、「持続可能な発展のための教育(ESD)」とグローバル・シティズンシップ教育(GCED)」というテーマでゼミを行う予定です。ESDとGCEDは、日本でこれまで様々な理論や実践の蓄積があるほか、2030年を目標とした持続可能な開発目標(SDGs)のゴール4(教育)のなかでもその重要性が指摘されています。授業では、ESDの考え方や、日本のユネスコスクール、あるいは海外で行われている実践をみることで、その意義と課題について考えます。
51	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火3	GSP20950	ESG概論II	引間 雅史	当講座は春季の「ESG概論 I」と合わせて受講することにより、サステナビリティ投資やESG(環境・社会・ガバナンス)の各側面を学修することによって、様々な社会課題と企業のESG経営および投資の本質的な役割や社会に与える影響を考えていきます。「ESG概論 I」と「ESG概論 II」は講座の流れとしてはこの順番で受講されることを想定した構成になっていますが、どちらかのみを受講したり、「ESG概論 II」から受講されても特に問題はありません。 春季の「ESG概論 I」ではESGの各側面で重要性の高い社会課題やテーマについての学修が中心であるのに対し、秋季の「ESG概論 II」では具体的に様々な投資家のESG投資アプローチに焦点を当てて行きます。(春季の「ESG概論 I」よりも投資やファイナンスに関するやや専門的な内容が一部含まれますが、初学者でも理解できる形で授業で取り上げます) まずインベストメント・チェーン(社会における各経済主体の投資行動のすり合わせや連鎖)におけるアセット・オーナー(年金基金・大学基金等)、アセット・マネジャー(運用機関)、投資先企業それぞれのサステナブル社会構築に向けた協働がもたらす社会的インパクトを理解することがスタートラインです。私たちが拠出している年金保険料が積み立てられた公的年金資産を使って本格的なESG投資が行われていますが、その考え方や内容について詳しく見ていきます。具体的なESG投資の実践事例を学修する中で関連する重要テーマとして「株式投資の基本とESG」「債券投資の基本とESG」「ESGと投資パフォーマンスの関係」「企業の情報開示」などを取り上げていきます。 次にESGの投資アプローチの一つである「インパクト投資」を学修します。これは社会課題解決への明確な意図を持って行う投資ですが、SDGsの課題解決への具体的な投資事例を見ていきます。 講座の後半で運用機関によるESGの具体的な投資戦略を見ていきます。実際に運用機関の人をゲスト講師として招いてお話を伺う機会も設ける予定です。国内の大学で最初に国連の責任投資原則(PRI)に署名しESG投資を実践してきた上智大学の事例についても紹介いたします。 本講座は投資に関するテーマを扱いますが、短期的な収益を追求する投資や財務分析を中心とする従来型投資の詳細な方法論も本講座の対象外となることを付け加えておきます。
52	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火3, 金3	LENG4042	ACADEMIC COMMUNICATION 2 (INTERMEDIATE II)*	DOYMAZ Sirin	On this course, you will apply the study skills you developed in Academic Communication1 to study an academic subject or topic. You will be able to deepen your understanding about a topic and further develop your knowledge, language and critical thinking skills. This is a CLIL-based course that mainly aims to develop students' discussion, research, and presentation skills and the theme will be the Sustainable Development Goals (SDGs).
53	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火4	EECS5007	GLOBAL DEVELOPMENT GOALS	ブテンカラム ジョンジョセフ	This course aims at a deeper understanding of United Nations Millennium Declaration that contains an integrated and comprehensive overview of the current situation of developing nations. Based on data, we analyze the progress made in achieving the Millennium Development Goals through a comprehensive review of successes, best practices and lessons learned, obstacles and gaps, and challenges and opportunities, leading to concrete strategies for action during SDGs period of 2015-2030. This course would enable students to understand theoretical as well as the major goals of development that the international community is striving to achieve now.
54	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火4	HED11100	国際教育学 I	杉村 美紀	国際教育学は、国際関係をめぐる教育の役割と課題について検討することを目的としており、①ヒトの移動(移民、難民、国際結婚、外国人労働者、留学生など)とそれに伴う多文化共生教育、②グローバル化、国際化のもとでの国民国家の揺らぎと教育の課題(国境を越えるトランスナショナル教育)、③国際関係を反映する教育事象(教科書問題など)、④国際教育文化交流といった観点が含まれます。2023年度は、「持続可能な発展のための教育(ESD)」とグローバル・シティズンシップ教育(GCED)」というテーマでゼミを行う予定です。ESDとGCEDは、日本でこれまで様々な理論や実践の蓄積があるほか、2030年を目標とした持続可能な開発目標(SDGs)のゴール4(教育)のなかでもその重要性が指摘されています。授業では、ESDの考え方や、日本のユネスコスクール、あるいは海外で行われている実践をみることで、その意義と課題について考えます。

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
55	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火4	GSP20980	国際高等教育論②(国際化と国際協力)	梅宮 直樹	<p>世界の高等教育の現状と課題を概観したうえで、日本および世界各地で急速に進む高等教育の国際化に焦点をあてながら大学を取り巻く環境の変化と国際社会による対応、また、そのなかで大学が果たすべき役割について議論する。また、海外の2つの大学の学生とオンラインでつなぎ、3か国の学生で集まって互いの国の文化、高等教育制度や大学生活について意見交換を行う交流授業も実施する(マレーシア、カンボジア、ケニア、エジプトのいずれかの大学)。なお、担当教員はJICAからの出向教員で、JICAや世界銀行で25年ほど高等教育の国際協力に携わってきており、その経験・知見を踏まえた講義を行う(参考: <a href="https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html">https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html</a>)。</p> <p>授業時限は火曜日4時限であるが、交流授業を行う2回(日程は調整中)については、相手側大学の都合によっては火曜日5時限に実施する可能性があるが、その場合は、他の授業と重なって参加出来なくても成績に不利にはならない。</p> <p>なお、2023年度前期に開講する国際高等教育論①は、日本および世界の高等教育の歴史と現状について地域ごとに詳しく見るのに対して、本講義は、現在世界各地で急速に進む高等教育の国際化に焦点をあてながら大学を取り巻く環境の変化と国際社会による対応を詳しく見ることを通じ、大学が果たすべき役割について議論する。また、国際高等教育論②の履修は国際高等教育論①を履修しなくても可能である。ただし国際高等教育論①を履修しておくのが望ましい。</p>
56	秋学期 / AUTUMN	秋学期	火4	GQC10510	生涯学習概論	三宅 隆史	<p>1. 社会教育・生涯学習に関する基礎的な事項(理論、政策、組織、実践、課題など)について説明することができる。</p> <p>2. 成人の学び方について理解し、実践することができる。</p>
57	秋学期 / AUTUMN	秋学期	水1	GSS30290	SDGs実現における森林の役割	コ)朴 慧美	<p>持続可能な社会の実現に向けて、森林が担う役割について学ぶための科目である。苗栽培から森林管理、木材流通・加工、住宅、バイオマス発電といった川上から川下までを事業領域に持つ住友林業株式会社から複数の講師を招き、ビジネスの観点から森林の役割について講義を展開していく。併せて、政府や国際機関等、複数の識者を招き、市民、政策の観点からも議論を深めていく。</p> <p>各授業において個別の論点についてSDGsにおける森林の価値を学ぶとともに政策や国際的な取り組みを俯瞰的に学ぶ機会となる。なお、最終授業終了後、授業内容で興味を覚えた内容についての最終レポートの提出が必要となる。アクティブ・ラーニングとして講演内容に基づき質疑応答を通じたディスカッションを行う。</p>
58	秋学期 / AUTUMN	秋学期	水2	MGGE7855	WASTE MANAGEMENT IN ASIA	ORI Akemi	<p>As the international community is to diversify, in order to construct a Recycling-based Society, we need to think about the waste management not only in Japan but also in the entire Asia. The title is the waste policy in Asia, but since waste is an international issue, we will look at waste issues not only in Asia but also worldwide. We will also deal with recent marine plastic issues, Circular Economy, waste and SDGs. In the class, not only lectures but also government officials of automobile recycling and construction recycling, recycling companies, etc. will be invited as guest speakers. In addition to utilizing videos, tours to recycling plants will be conducted. For Doctor Course students, in addition to the basic lectures, we will give more analytical classes based on the themes of their dissertation.</p>
59	秋学期 / AUTUMN	秋学期	水3	BGS59400	東南アジアの教育と文化	久志本 裕子	<p>この講義の目的は、東南アジア各地のローカルな教育の在り方と、植民地化を通じて広まった近代的教育の在り方の複雑な関係を読み解くことを通じて、私たちに与えられた教育とは何かを考え直すことです。</p> <p>SDGsの「質の高い教育をみんなに」に代表されるように、貧しい人々も、障害を持つ人々も平等に、基礎的な教育を受けることができるよう保証することは非常に重要かつ難しい課題です。東南アジアは全体としては初等、中等教育の就学率はかなり伸びていますが、それでも自分の能力を十分に開花するための教育機会に恵まれない人々は数え切れません。このような状況を見聞すると、「豊かな日本」で教育を受けた「恵まれた」私たちは、直感的に「助けなくちゃ！」という使命感を持つかもしれません。</p> <p>しかし、「すべての子どもたちに」本当に必要な教育とは何でしょうか。普遍的に価値のある、だれもが学ばべき知識とは何でしょうか。私たちがイメージする「学校」が広まったのは日本でも一世紀以上前のことにすぎませんが、それ以前、東南アジアの人々はどのようにして学んでいたのでしょうか。そこで学んでいた知識や価値は、近代的学校教育の普及によってどこに行ったのでしょうか。そのように考えると、私たちは「恵まれて」いて、「彼ら」にはそれが欠けている、という考え方には明らかに問題があることが見えてきます。</p> <p>これらの問題を東南アジアの「ローカル」な視座から具体的に考えることを目指すこの講義では、文化人類学と比較教育学を主な視点として、東南アジアの各地の学校教育の現状と、伝統的な学びの文化が近代化、グローバル化の中で変化してきた過程を概観します。似たような構造を持つ普通の学校だけを取ってみても、各地で大きな違いがあります。こうした違いを実感をもって知るには、文献に加えて、画像、映像等の視覚的資料や、異なる教育を経験してきた人々の生の声を聴くことが不可欠です。</p> <p>このため、一学期のうち少なくとも一度は、ZOOMで東南アジアの教育に直接かわかる人々とコミュニケーションをとる機会を設けます。また、期末レポートでは研究対象とする国、教育事象を定めて、それに関する直接的な経験を持つ人々が発信した資料を集め、その経験を対象社会における教育の状況を踏まえて解釈する、という内容を課します。日常の中で、関係のあるニュースをフォローしたり、ウェブサイトを、ソーシャルメディアなどを意識して探して情報収集をしてみてください。</p>
60	秋学期 / AUTUMN	秋学期	水3	GSS20490	グローバル・リスク論	コ)国枝 智樹	<p>日本経済新聞社の編集委員、専門分野に通じたエディターが交代で授業を担当します。国内外で積み重ねた取材に基づき、現代社会が直面するグローバル・リスクを多角的に解説し、その解決策を考えます。</p> <p>リスクは政治・経済・社会の広範な分野に存在し、時代とともに変遷します。グローバル化やデジタル化の進展はリスクが拡散するスピードを加速させたばかりでなく、新たなリスクも生み出しています。一方で、リスクを正しく認識し、いち早く対策を打ち出すことはチャンスにつながります。危機と好機はコインの裏表のような関係にあり、コインを覆すチャレンジが人類の進歩の言動力になったとも言えます。世界はいま激しく動いています。皆さんがその潮流を読み取り、次代を切り開くには、グローバル・リスクを正しく理解することが不可欠です。授業を通じてその力を養ってください。</p> <p>授業の前半は、ウクライナ侵攻や米中対立など、国際秩序を巡る最新の動向を読み解き、日本との関係も含めて考察します。中盤はSDGsや新型コロナウイルスなど、人類が直面する共通の課題にフォーカスします。後半はデジタル化によって顕在化した新たなリスクを解説し、情報リテラシーやリスクコミュニケーションの観点から民主主義の将来を考えます。</p> <p>現代社会のリスクは論点が多岐にわたり、複雑に絡み合っています。一例として、米中関係を正しく理解するには、政治、経済、軍事、テクノロジー、資源など、様々な観点から考察する必要があります。同じエピソードを複数の講師が取り上げることもありますが、リスクを読み解く角度が異なる点に注目してください。</p>

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
61	秋学期 / AUTUMN	秋学期	水4	HJN53700	時事問題研究特殊1b(国内)	大牟田 透	朝日新聞GLOBEの特集記事などを題材に、国内外の時事問題への理解を深めると同時に、ストレートニュースとは異なる企画記事の立案や取材方法を学びます。 特集記事を担当したGLOBE記者らに企画の着想や実際の取材・執筆について聞くなどしたうえで、ディスカッションやグループワークなどを通じて理解を深めます。「自分が記者・編集者ならばどのような企画記事をつくるか」といったテーマでのグループ討論やプレゼンテーションを経て、自らの企画記事を実際に作ってもらいます。 GLOBE編集部のデジタル発信の取り組みなども学び、メディアの新しいあり方についても議論します。 リアクションペーパーやレポートを課し、それをもとにした議論もおこないます。 *春学期と秋学期はほぼ同一内容ですので、重複受講するかどうかはその点を十分考えたうえで決めて下さい。再受講者には評価のハードルを上げる可能性があります。
62	秋学期 / AUTUMN	秋学期	水4	GSP30170	国際教育開発・協力論(事例研究)	梅宮 直樹	本講義は、発展途上国における教育開発・協力に関わる実践について事例研究的に分析し、議論する。まず、国際教育開発の現状と課題を概観し、人間開発、社会開発、経済開発の3つの視点と、グローバル、国家、学校/コミュニティの3つの分析レベルから、国際教育開発・協力の理論をレビューしたうえで、事例研究として、国際教育開発・協力に関わる主なアクターである国際開発協力機関(多国籍機関、二国間機関、非政府組織)を紹介し、その政策・戦略とプログラム/プロジェクトの動向を分析・議論する。また、国別の事例研究として、東南アジア地域の教育開発の現状と課題を確認したうえで、各国における教育開発・協力プロセス及び地域統合を目指すアセアンの地域教育協力を分析・議論する。  なお、担当教員はJICAからの出向教員で、JICAや世界銀行で25年ほど国際教育開発協力を携わっており、その経験・知見を踏まえた講義を行う(参考: <a href="https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html">https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/careers/careers02.html</a> )。
63	秋学期 / AUTUMN	秋学期	木3	MGGE7130	都市サステナビリティ	銭 学鵬	都市人口の増加(世界人口の50%)と都市拡張(95%)に伴い、都市サステナビリティは、SDGsの「持続可能な都市とコミュニティの目標11」に掲げられている持続可能な開発のための重要な課題の一つとなっている(UN, 2014)。本授業では、Plan-Implementation-Assessmentの流れで構成されており、サステナビリティを実現するための都市計画とマネジメントの全体像の理解を深めることを目的としている。前半に、交通、エネルギー、都市代謝、グリーンインフラ、食料、水などトピックについて説明し、都市の持続可能性のビジョンを探るための議論を行う。また、持続可能な都市の実現と変革を理解するために、官民連携、イノベーションなどの実践的な部分を取り上げる。最後に、都市サステナビリティを評価するための理論、指標、挑戦について説明する。また、将来のビジョンやグッドプラクティスに関するグループワークも予定されている。
64	秋学期 / AUTUMN	秋学期	木4	MGGE806B	演習 / SEMINAR D	ORI Akemi	都市人口の増加(世界人口の50%)と都市拡張(95%)に伴い、都市サステナビリティは、SDGsの「持続可能な都市とコミュニティの目標11」に掲げられている持続可能な開発のための重要な課題の一つとなっている(UN, 2014)。本授業では、Plan-Implementation-Assessmentの流れで構成されており、サステナビリティを実現するための都市計画とマネジメントの全体像の理解を深めることを目的としている。前半に、交通、エネルギー、都市代謝、グリーンインフラ、食料、水などトピックについて説明し、都市の持続可能性のビジョンを探るための議論を行う。また、持続可能な都市の実現と変革を理解するために、官民連携、イノベーションなどの実践的な部分を取り上げる。最後に、都市サステナビリティを評価するための理論、指標、挑戦について説明する。また、将来のビジョンやグッドプラクティスに関するグループワークも予定されている。
65	秋学期 / AUTUMN	秋学期	木5	MGGE806A	演習 / SEMINAR C	織 朱貴	環境問題は、地球規模で国際的に考えなければいけない問題であると同時に、私たちの暮らしのあらゆるところに関わっている問題である。その問題の対策を法律でどのようにコントロールしているか、法の適用とその限界を考えながら解決策を考えていく。地球環境のおよび現実的な観点を意識しながら文献報告と討議を行う。テーマごとに担当者が発表を行い、それに対する質疑応答を重視する。皆でしっかりと議論するためには1人がしっかりと準備することが必要となる。指定図書、判例をきっちり読み込んで分析することをベースに、現場実証等を加えて議論を発展させていきたい。
66	秋学期 / AUTUMN	秋学期	木5	MZAG5540	HUMAN RIGHTS - UNITED NATIONS HUMAN RIGHTS COUNCIL	ONOJIMA Goro	The United Nations Human Rights Council (hereinafter "HRC") is the main UN organ in charge of the protection and promotion of human rights - one of the three pillars and purposes of the UN. This course, led by a former UN official (who served as Secretary of the HRC until May 2022), is designed to examine the work and functioning of the HRC since its establishment in 2006 replacing its predecessor (UN Commission on Human Rights), including its core mechanisms, such as the Universal Periodic Review and the special procedures. Through assignments, including presentations on specific UN reports and documents, the course is intended to help students acquire a basic knowledge of not only traditional human rights issues at the national and international levels, but also the human rights implications of other global issues discussed at the UN (e.g. the SDGs; climate change; armed conflicts; terrorism; new and emerging technologies; COVID-19). Through presentations, viewing of videos of HRC meetings and role-playing exercises on the negotiations and voting on resolutions on country situations and controversial themes, the course will also expose students to the reality of intergovernmental and political processes of debates and decision-making, influenced by realpolitik and evolving multilateral and bilateral relations between States and groups of States. Furthermore, it is hoped that the course will contribute to an improved knowledge of UN intergovernmental processes
67	秋学期 / AUTUMN	秋学期	木5	GSC20050	東アジアの諸問題とイエズス会教育(上智・西江共同開講科目)	光延 一郎・李 ウォンギョン	本科目(全学共通科目)の目的は、日韓の学生が、出会いと対話と共通体験を通して他文化を理解し、めざす目標をともに探し、いっしょに歩んでいくということにあります。 2010年度より実施されてきたSOFEX(上智大学・西江大学スポーツ・文化交流会)によって、西江大学と上智大学の学生が隣国理解・文化理解に努め、両大学の交流を深める機会となりました。本授業はこの経験を活かしながら、同じイエズス会系大学ならではの関係構築にも重点を置きます。学術協定校としてアジアの中で重要なパートナーとなる西江大学と、双方向の学術交流による連携強化を図ります。 上智と西江はともにイエズス会系の大学であり、教育理念を共有しています。それは、すべての人を人種や民族・国籍、宗教、ジェンダーなどの違いを越えて人格の尊厳において尊重し、とりわけ社会の中で弱い立場に置かれた人々の「隣人」になって「他者のための存在」に成長していくことをめざすものです。そのための方法は、イエズス会の伝統において「現実の体験を優先し」、「批判的な視点」で「ものごとを内的に深く知り(internal knowledge)」、「個人と社会を助ける」ことです。そのため、オンラインでの両校担当教授や招聘講師による合同授業を実施するほか、現場学習やそれをもとにしたプレゼンテーションを行います。 今年度は、隣国理解を軸としながら「東アジアにおける国連のSDGsとイエズス会UAPs(Universal Apostolic Preference)研究」をテーマとします。 なお、参加学生を両大学各20名に限定する理由は、イエズス会大学における"cura persona(個々人の学生の成長を人格的に見守りながら教育を行う方法)"を重視するからです。 当科目の履修にあたっては、選考を行い、合格した者が本科目を履修登録することができます。
68	秋学期 / AUTUMN	秋学期	木5	GSS20650	地球環境学II	コ)中川 善典	システムとしての地球環境問題は、資源・エネルギー問題を含む自然界の物質循環の仕組みに加え、市民の意識、生活様式、価値観、政治、経済、財政・税制、国際問題などが深くかかわり、それぞれの問題が高度に複雑な関連をもつ。本講座では、地球環境問題に対し人文・社会科学の観点から解明を試みると共に、解決の方策を探ろうとするものである。

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
69	秋学期 / AUTUMN	秋学期	金1	GSS20690	途上国の開発目標	プテンカラム ジョンジョセフ	この科目は、途上国を背景に、MDGsとSDGsによって提供している開発目標の現状と思想を理解することをねらいとする。2000年9月、国連ミレニアム・サミットに参加した189の国によって採択された「国連ミレニアム宣言」をもちに2015年までに達成すべき国際社会共通の目標としてまとめられたのがミレニアム開発目標(MDGs)でした。ミレニアム開発目標(MDGs)は、特に途上国の人々が直面していた多くの問題を解決する原動力となりました。具体的な目標値を掲げ、15年間の年月をかけて世界が一丸となって取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善されたのです。その一方で、MDGsの達成状況を国・地域・性別・年齢・経済状況などから見てみると、様々な格差が浮き彫りとなり、「取り残された人々」の存在が明らかとなりました。MDGs最終年の2015年、ポスト2015年開発アジェンダとなる世界の17の目標を定めた『持続可能な開発目標(SDGs)』が、9月25日の国連総会で採択されました。SDGsは2030年までの開発の指針として、格差をなくす(=「誰ひとり取り残さない」)ことを重要な柱とし、MDGs&SDGsの取り組みをさらに強化するとともに、新たに浮き彫りになった課題も加えられた包括的な目標です。途上国の開発を促進するために社会課題と展望を分析し新たな世界秩序の基礎を考察していく。
70	秋学期 / AUTUMN	秋学期	金2	GSS30270	SDGsとグローバルリスク	コ)西澤 茂	・日本航空の直面するイベントリスクへの対応、SDGsのゴールを達成する為のESG経営の実践、及びネットワークを活かしたSustainableな地域活性化の取り組みを題材として取り上げます。 ・講義形式の授業後に、学生に課題を提示し、「グループワーク⇒発表・講評」を授業において3回実施します。
71	秋学期 / AUTUMN	秋学期	金3	MGGE7140	URBAN SUSTAINABILITY	QIAN Xuepeng	Course description Urban sustainability has become one of the major issues for sustainable development, with the increasing urban population (50% of global population) and expansion (95%) (United Nations, 2014), listed as “Goal 11 sustainable cities and communities” in SDGs. This course is organized in the flow of Plan-Implementation-Assessment to provide a holistic view of urban planning and management for sustainability transformation. Topics such as transportation, energy, urban metabolism, green infrastructure, food and water will be explained and discussed for exploring the visions of urban sustainability. Public-private-partnership, innovation will be covered in implementation part to understand the urban transformation. Theory, indicators, and challenges will be explained in the last part of assessing urban sustainability. Group presentations related future visions and good practices are scheduled too.
72	秋学期 / AUTUMN	秋学期	金4	FLS63000	ブラジル社会開発協力	蛸山 はるみ	本講義は日本政府がブラジルで支援した社会開発プロジェクトの現場の話を通して、社会開発協力への理解をはかる。導入として、ブラジルとプロジェクトが実施された北東部について概観する。また、社会開発の基礎と政府開発援助、国際協力機構(JICA)を中心に国際協力の基礎を学ぶ。 ブラジルは、ロシア、インド、中国、南アフリカとともにBRICSとして経済発展が目ざされているが、国内に大きな社会格差と貧困の問題を抱えている。こうした課題解決の取り組みの一つとして「健康は生活の場であつくれる」というヘルスプロモーションの考え方にもとづく「まちづくり」がすすめられている。内発的・地域開発の取り組みである。 ブラジル政府は日本に対し、この取り組みへの協力を要請した。日本政府はODAの実施機関である国際協力機構(JICA)そして厚生労働省の国立国際医療センターを通して、2003年12月から5年間、ブラジル北東部における「健康なまちづくりプロジェクト」に協力した。このプロジェクトは、世界保健機関(WHO)のヘルスプロモーションという戦略に基づいているが、特に「住民と行政が協力して健康なまちづくりをすすめる仕組みをつくること」に焦点をあてた。健康なまちづくりを推進する人材の養成、人々の持ち味や潜在能力を生かしたコミュニティづくりの肯定的手法、住民と役場の様々な部局がともにまちづくりを考える場、まちとまちの学びあいのネットワーク、そして大学や州政府による支援等、様々な仕組みづくりの過程を見ていく。まちの人々の意識がどのようにかわり、また、どのような活動が展開されて来たか、プロジェクト後から現在に至る様子も含めて紹介する。ブラジル政府のSDGsの取り組みとの関連についても触れる。 ODAによる開発協力のプロジェクトは、あくまでもある地域や国のダイナミックな発展のプロセスに試し動きかけるものである。こうした限られた事業を通していかしたら人々のしあわせな暮らしづくりに貢献できるのか、ブラジルと日本の関係者の試行錯誤を紹介する。協力における日本側の触媒としての役割の大切さも考えたい。 本校でポルトガル語を学び、地域研究、国際関係論の考え方に触れた本講師は、上述した社会開発プロジェクトの専門家チームで、異文化間協力におけるコミュニケーションの促進ということにもかかわった。信頼と対話の大切さ等その経験から学んだことについても触れる。 ある特定のプロジェクト中心の話になるが、これを入口に、グローバル化が進み、コロナ禍その他様々な危機に直面する中で、人々が共にしあわせに暮らすためにはどのような国際協力が必要なのか、開発協力の現場に関心のある、あるいは国内のまちづくりに関心のある受講生と一緒に考えていきたい。他学部、他学科の学生の参加も大歓迎である。
73	秋学期 / AUTUMN	秋学期	金5	MFIC1320	ENVIRONMENTAL HISTORY AND POLICIES IN JAPAN	杉浦 未希子	In this course, having SDGs (Sustainable Development Goals) as the global goals in common for us all, we address a series of questions: -How could we understand the changing or/and unchanging concepts and values of “nature” in Japanese history, -how the interaction between people and the environment have been determined, -what kinds of policy measures have been implemented concerning pollution under the pressure of modernity, -Did Japanese perception of nature change after 2011, and finally -what kinds of lessons for achieving SDGs could we obtain from Japanese history in the environment.  Through examining a series of these questions, we explore concepts and values of “nature”, episodes in histories, actors, and agents, besides contents of major policies on the environment issue in Japan. Primary expertise would be environmental history環境史, environmental policy studies環境政策史, and political ecology (economy). Interactive and active discussion as presenters and other students is expected. Besides Japanese reading ability (some class materials are Japanese), English proficiency is required.
74	秋学期 / AUTUMN	3クオーター	火3, 金3	GSS20521	SUSTAINABLE DEVELOPMENT*	SUGIURA Mikiko	The concept of “Sustainable Development” offers us many controversial topics these days. It is defined as how to balance economic growth, society, and the environment, not only for us but also for future generations. However, is such a thing possible in the first place? What kind of historical background does this concept, which encompasses conflicts of interest, have, and what kind of stakeholders does it involve? Is it possible to achieve a win-win-win situation, and what kind of innovative ideas are needed to achieve it? With creativity and critical thinking skills, you all need to redefine this concept for yourself and implement the ideas. In such a sense, we are involved in these issues as global citizens without exceptions.  To find some clue to these questions, we need to know the historical and political background in the “development” concept, underlying assumptions in context, and environmental carrying capacity as our limits to recognize what we really need and want.  This course provides students with opportunities to think about the future development we want and how to pursue a “sustainable” future.

2023年度 SDGs関連科目一覧 / List of SDGs-related Courses for the Academic Year 2023

No.	学期 / Semester	開講	曜日・時限 / Period	登録コード / Registration Code	科目名 / Course title	担当教員名 / Instructor	授業の概要 / Course description
75	秋学期 / AUTUMN	3クォーター	火6, 木6	GSS20600	ジェンダーの平等 国連・国際協力、世界と日本*	佐崎 淳子	<p>グローバル化が進む中、国連、国際協力の在り方も、歴史を通して変化・変遷してきている。2010年にミレニアム開発目標(MDGs)、そして2015年に、「2030年アジェンダ - 持続可能な開発目標(SDGs)」が採択された。そして、「ジェンダーの平等」、「女性の地位向上」、「男女共同参画」と「人権」なくして、真の意味での開発・貧困削減は達成されず、人道・緊急援助における「ジェンダーの平等」の重要性も認識されるようになった。SDGs(持続可能な開発)を達成する上で、国際協力に、「ジェンダーの平等」をさまざまな分野に組み込むことは不可欠な要素となっている。</p> <p>日本はG7のメンバーであり、また開発援助支援国である。しかし、世界経済フォーラムでのグローバル・ジェンダー・ランキングにおいては116位(2022年)であり、韓国(90位)や中国(102位)や、また日本の支援国であるアジア(フィリピン19位、ラオス53位)、アフリカ(ルワンダ6位、ナミビア8位)や中南米の国々(ニカラグア7位、コスタリカ12位)よりも後れをとっている。その要因、そこからくる社会的弊害、また日本の現状と課題について考えてみる必要がある。</p> <p>日本では、少子高齢化により人口減少が進む一方、世界の人口は開発途上国で増え続けている。少子高齢化や人口増加も顕著にジェンダーが関与しており、その対策にも真の意味での早急なジェンダーの平等・女性の地位向上が必要とされている。少子高齢化に直面する国々は、労働人口確保の必要性に迫られている。移民政策だけではなく、ジェンダーの平等、男女共同参画や女性の地位向上などの政策設定に試行錯誤しながら、様々な社会的変革が起きている。</p> <p>授業では、 1) 「ジェンダーの平等」、「男女共同参画」、「女性の地位向上」を、国連やグローバルな観点、国際協力、日本や世界のさまざまな国の事例から学び、理解を深める。 2) 「ジェンダーの平等」や「女性の地位向上」が、次のような様々な課題(貧困削減、食料支援、人口と開発、リプロダクティブ・ヘルスと権利、ジェンダーに基づく暴力、国際医療保健、教育、労働、気候変動、難民、移民、紛争下における人道援助等)においてどのように配慮されているかについて、実例を挙げて考察する。 3) SDGs(持続可能な開発)、貧困削減、国際保健医療(感染症、Covid-19)、人口と開発、教育、気候変動、人道・緊急援助等を「ジェンダーの平等」の観点から分析する。</p>
76	秋学期 / AUTUMN	3クォーター	木5, 木6	MFIC1010	UN STUDIES SEMINAR	植木 安弘	<p>This course analyzes various tasks and challenges which the international community and the United Nations face by focusing on thematic areas. It covers the UN peace operations, SDGs, human rights and humanitarian assistance, disarmament, criminal justice and terrorism. The UN Secretary-General's annual report, which is issued at the outset of the annual General Assembly, will be used as the main textbook. This report will also be available online at the end of September.</p> <p>国際教育学では、国際関係をめぐる教育の役割と課題について考察することを目的としており、①ヒトの移動(移民、難民、国際結婚、外国人労働者、留学生など)とそれに伴う社会変容と多文化共生教育の課題、②グローバル化、国際化のもとでの国民国家の揺らぎと教育の課題(国境を越えるトランスナショナル教育)、③国際関係を反映する教育事象(教科書問題等)、④国際教育文化交流、という4つの領域を柱としています。本演習では、参加メンバーの研究関心に基づき、特定のトピックを決め、共通文献や資料を参照し各回の担当者による発表と議論を行い、国際教育学の研究課題と可能性を分析することを目的としています。これにより、本演習では、1~2年次に国際教育学概論で学んだ知識や考え方を基礎に、課題に取り組むことで、事象を教育的に読み解き問題解決の筋道を模索する能力、人間の尊厳を希求する態度、国際的な視野などを育みます。なお演習では、グループワーク重視し、他者との議論やダイアログを通して多角的に考察する経験を積むと同時に、協働して学ぶことの異議を合わせて習得できるようにします。</p>
77	秋学期 / AUTUMN	4クォーター	火1, 火2	HED52700	国際教育学演習 I*	杉村 美紀	<p>本年度は、秋学期に別途開講される国際教育学演習Ⅱとの兼ね合いを考慮しながら、「持続可能な未来に向けた教育」をテーマに、2030年を目標とした持続可能な開発目標(SDGs)の実現について考えます。授業では、2021年11月にユネスコが発表した世界の中長期教育ビジョン『教育の未来』の報告書を取りあげるとともに、多文化社会における教育と文化の在り方を考えます。ゼミでは、毎回発表者(個人ないしグループ)を決め文献や事例に即して議論します。講義を聴くだけでなく、議論を通じて様々な意見交換の場をもち、比較の視点を重視した学びができるように努めます。昨年度に続き、コロナウイルスの問題が様々な影響を及ぼしている現状をふまえながら、教育(学)が「持続可能な開発のための教育(ESD)」という観点からどのような役割と課題を担っているかに留意しながら議論を深めたいと考えています。</p> <p>本授業は第1クォーターに実施いたします。1回の授業は2コマ続き(100分×2コマ)で原則として対面授業で実施する予定です。課題の設定や提出等はLMSやMoodleを利用し、資料や映像を用いて進める予定です。またクォーターの終わりには、個別に面談を行い、学びの振り返りと秋学期以降の卒業論文研究に向けたフィードバックを行います。</p>
78	秋学期 / AUTUMN	4クォーター	火6, 金6	MFIC1460	SUSTAINABLE DEVELOPMENT 2 (SDGs in the context of the United Nations)	森田 宏子	<p>The course aims to provide pragmatic knowledge on sustainable development, particularly at the UN and to develop the related skills and know-how useful for a career at the UN and other international organizations. While giving focus on the principal Goal-1 among the 17 SDGs on "Leaving No One Behind" (poverty eradication), the lessons will explore what sustainable development means to the so-called vulnerable countries such as the least developed countries (LDCs), Africa and small island developing States (SIDS). In that context, inter-linkages among SDGs in particular SDG-1, SDG-13 (Climate Action) and selective other SDGs such as Gender and Education, will be explored. In addressing these issues, students are expected to conduct online research and develop abilities to extract key information and analyze reference materials from UN agencies, and from recorded statements and meetings. The students will develop skills to effectively draft, conceptualize, debate or present their analysis and findings.</p> <p>Building smart cities/regions are becoming a major challenge for local governments. Especially, more attentions have been paid to the design of climate resilient cities using brand new smart mobilities including air taxi etc.</p>
79	秋学期 / AUTUMN	秋学期集中	他	MGGE7760	URBAN SYSTEMS DESIGN OF SMART CITIES FOR ACHIEVING SDGS	YAMAGATA Yoshiki	<p>In this lecture, students will study about the systems designs for the urban (Nihonbashi) and regional (Amami Oshima) test sites in Japan.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•All classes will be offered face to face.</li> <li>•Some classes will visit test sites in Nihonbashi (near Tokyo station)</li> </ul>